



こくろうよなご

第19号

2025年6月10日

発行責任者 倉下文明

編集 教宣部

つくろう職場に労働運動を！ ひろげよう闘いを 職場に、地域に、全国に！

制度政策要求の前進を！

選挙対策委員会を設置

去る6月1日、島根県支部事務所にて、「浜田市議会選挙対策会議」を開催しました。10月に控えた「浜田市議会議員選挙」では、4期目の当選を目指して組織内候補の「小川稔宏」氏が立候補を決意されています。労働組合の活動の一つの大きな柱でもある「制度・政策」要求の前進のためにも、何としても四たび「小川 稔宏」候補を議会へと押し上げていかなければなりません。

対策会議は、倉下執行委員長の司会・挨拶ではじまり、選挙日程・選挙情勢などを確認した後、候補者の小川氏より、3期12年の議員活動で大事にできたことや10月の選挙に向けての闘う決意など、次のように熱く語られてきました。

活動の原点には――！

出雲市で国労OB宅へのオルグ中に、元国労組合員と話をする機会があった。「国鉄分割民営化当時は、毎日のように組合を変われどオルグをされ、追い詰められ公的部門への転職を選んだ」と言われていた。自ら生命を絶つ仲間や退職する仲間、事業所での非人間的な扱いや京阪神への一方的な出向発令など許せないとの思いが自



挨拶する小川稔宏浜田市議

崩される闘う砦――！

選挙情勢については、非常に厳しいものになると認識している。新たな支持者の掘り起しにも取り組んでいきたい。労働組合の組織率は16%程となっている。非正規で言えば、もっと少ない。結婚も出来ない・子育てなど出来ないうちで、状況にないか。安心して働き続けられる労働環境の整備が必要だ。国政に目を向ければ、「年金改革」「消費税の減税」を巡る攻防など私たちの暮らしと直結する問題ばかりだ。身近な労働組合の現状で言っても、会社倒産・組織の分裂・脱退

の中で、闘う砦となり得ていない。闘う組織を作るために本気で取り組むことが必要だ。自分自身も浜田市議会選挙を全力で取り組む決意である。皆さんのご支援をお願いしたい！

組織の総力を挙げて

小川候補の挨拶を受け、議論では「若い人に関心を持ってもらうような政策や広げ方を考えては」「現職と退職者の会の家庭オルグなど、出来ることから取り組むことが必要ではないか」「選挙に関心なき

誰にとつての業務改善なの

去る5月16日、中国鉄括本部にて「2025年度に実施する主な業務改善施策について」の説明を受けてきました。

決まり文句に考える

「生産年齢人口の減少によって、今後ますます労働力の確保が困難となる中、将来にわたって事業を継続・発展させていく観点から、より一層の安全確保を前提としつつ、効率的な業務執行体制を構築していく必要がある」というのが、施策実施にあたって決まり文句の様になっていきますが、働く者の観点・利

何もない事を願って

さそうは人にも、声を掛けながら市政について考えてもらうことが必要ではないか」「知人・友人等の支持者カードを早急に取組んではどうか」などの意見が出されました。その後、倉下選対委員長・森岡事務局長をはじめとした「浜田市議会議員選挙対策委員会」の設置を確認、10月の投票日まで、組織の力を結集し「小川稔宏」組織内候補の当選に向け、取り組んで行く事を意思統一してきました。

巨額赤字を抱える日産が国内外での2万人削減を公表、黒字を抱える大企業でも1000人規模でのリストラが公表されている。2024年の上場企業の早期・希望退職は1万人をこえ、この流れは25年も続くと言われている。人手不足が叫ばれる一方で雇用の流動化を狙ったものか。雇用と権利を守る労働組合の出番でもある。

らが考え、行動しろという所謂、自己責任・自己判断に基づく働き方が求められるようになっていきます。その結果、「常に何かをしなれば」という状態におかれていくのでは無いでしょうか。

また、作業ダイヤが残っている担務でも、「作業ダイヤ通りにしてはけない」として、「どうすれば作業を時間内に終わらすことが出来るのか」個人が考えたり、ながらあわて作業をしたりして、「何も不備が無い事を願いながら仕事をしたい」と言われています。業務改善とは、余裕のない職場をつくる事ではないはずですが。

編集後記